

【事例発表】

団体名：ムンド・デ・アレグリア学校

<http://www.mundodealegria.org/>



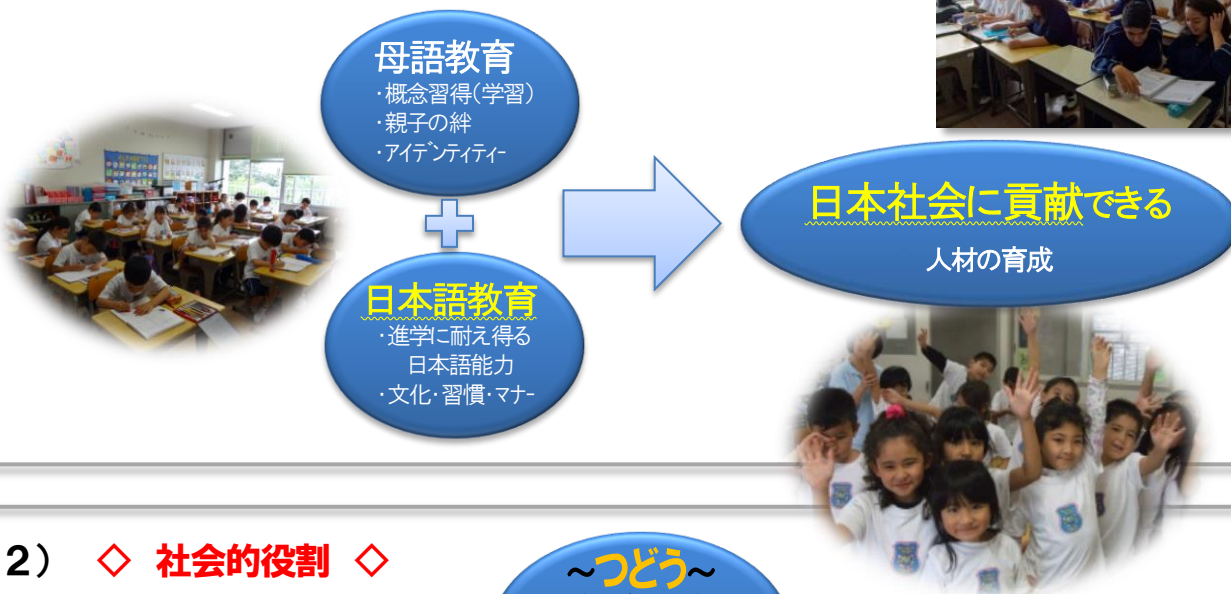
ムンド・デ・アレグリア学校は、静岡県浜松市にある南米の日系人の子どもたちのための学校です。ペルー課程・ブラジル課程があり、幼稚園から高等部まで220名(2015年7月現在)が在籍しています。子どもたちは皆、出稼ぎ労働者の子女であるため、親の就労に左右され、将来、日本に住むのか、母国に住むのかわからない状況で学習を続けなければなりません。

卒業後の在住地が定まらない子どもたちの背景を考えると、外国人学校本来の役割とは異質な役割が重要となります

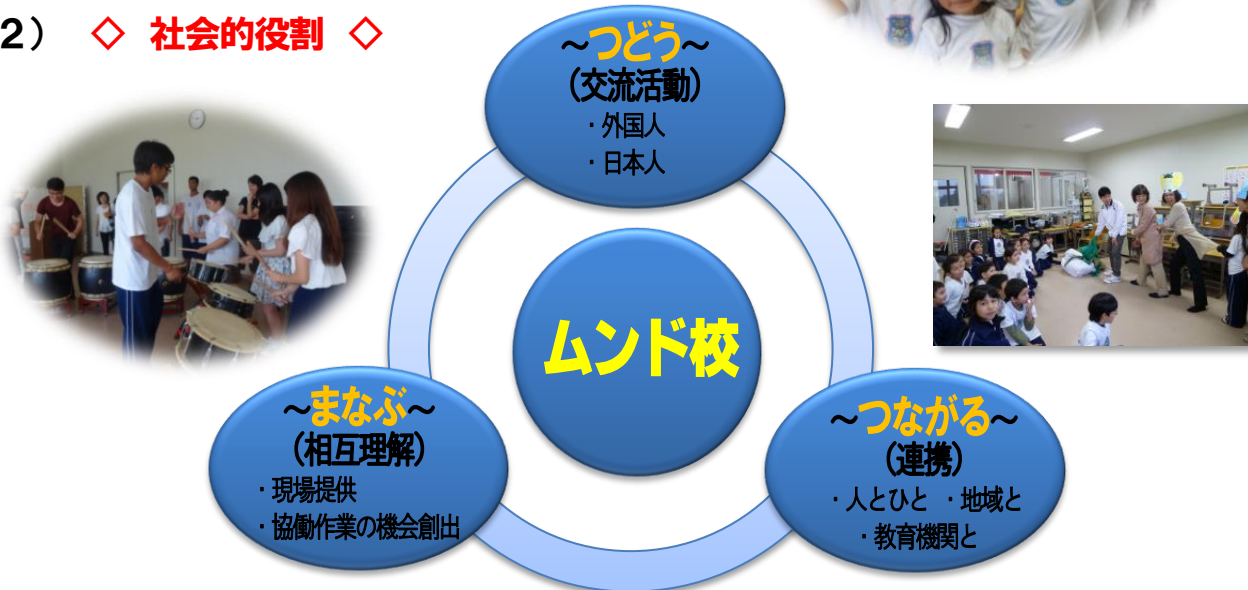
～ ムンド校の “挑戦” ～

(1) ◇ 教育的役割 ◇

母語教育で「豊かな心」を、日本語教育で「生きる力」を



(2) ◇ 社会的役割 ◇



事業実施概要

事業名称	相互理解のための日本語教育体制整備推進事業			
地域の課題	多文化共生社会に一步でも近づくためには、相互理解することが重要である。外国人に対して日本語・文化・習慣など日本語教育の機会を提供するとともに、日本人が外国人を知るための機会・活動を創出することも必要である。また、日本語能力のある外国人に対しては、日本の文化・習慣・マナーを学習させ、日本人学生においては、実習の現場として教育施設を提供することで日本の社会に貢献できる人材育成を行うことが必要である。			
事業の目的	外国人、日本人双方に働きかけることで、相互理解を促進し、外国人と日本人が繋がり、外国人が日本人への依存型ではなく、互いに助け合う社会を作り上げるための取組を実施し、定住外国人の円滑な社会参加を目指す。			
事業内容	取組1		取組2	
	名称	地域課題検討のための実行委員会	名称	外国人と日本人の相互理解交流
	目的	浜松市内の日本語教育の体制整備をさらに拡大・充実させるために、外国人住民を含む様々な立場の方々がそれぞれの立場や観点から地域の課題について意見を交換し、対応策について協議する場を設け、顔の見えるネットワーク構築を目指す。	目的	日本人と外国人が交流できる場を提供することで、日本人と外国人を繋ぐ。また、外国人に必要な情報・知識を提供することで、彼らが日本社会に、より受け入れやすくする。
	内容	地域課題と同時に本事業で取り組む活動を継続的な実施に向けた体制整備の観点から検討する。	内容	学校現場を拠点に、文化交流・イベント交流など日本人と外国人が協働できる活動、防災訓練・交通ルールなど外国人が必要な情報を提供し、その際に必要な日本語が習得できる活動を計画・実施する。
	対象	自治体・自治会・教育関係者・企業関係者・日本語能力のある外国人	対象	外国人・日本人
	時間	1回2時間×2回(全4時間)	時間	1回2～3時間×24回(全50時間)
	人数	20人	人数	147人
	取組3			
	名称	地域を担う人材育成のための講習会及びワークショップ		
	目的	日本人と日本語能力のある外国人が共に異文化理解・多文化共生について学べる機会を創出することで、日本人は外国人への理解を促進し、外国人は日本社会に適應できるように促し、日本社会の中で活躍できる第2世代の人材を育成する。また、日本語能力のある外国人が、これから日本語を学習する外国人を支援できる体制を構築する。		
	内容	日本人、日本語能力のある外国人を対象として、専門家や外国人と日々接している経験豊富な者等を招聘し、講演会を開催する。また、日本人と外国人相互のワークショップを計画・実施する。講演会で日本人・外国人共、異文化理解・多文化共生への理解を深め、ワークショップにおいては、共同作業を実施し、これから日本語を勉強する外国人に役立つようなものを成果物として作成する。		
	対象	日本人・外国人(日本語能力中級以上)	時間	1回2時間×10回(全20時間)
	人数	109人		
連携体制	自治体、外国人学習支援センター、社会福祉協議会、警察、消防署、自治会・近隣の小・中・高等学校、日本語教育・国際関係・スペイン語・ポルトガル語学科などを持つ大学など、活動を通して連携体制を構築している。			
成果と課題	次世代を担う日本人と外国人が共に活動しながら、日本語能力のある外国人と日本人が協力して活動を実施し、彼らが取組の中で活躍する姿を見ることによって、地域在住の日本人の外国人に対する理解がより促進され、連携体制整備もよりスムーズに構築できてきている。日本人が支援者、外国人が被支援者という構図を打破し、外国人自らが、日本語学習の必要な外国人を支援するロールモデルを少しでも多く輩出していくことが必要である。			
参加者の皆様へ一言	学校現場だからこそできる活動、連携体制構築を実施しています。その中でもこれからの社会を担っていく日本人と外国人の協働での活動に特に力をいれています。今年度の文化庁の事業で取り組んでいる活動の経過報告もしたいと思っています。			